

動詞「教える」と共起する授受表現について

朱 炫姝 (筑波大学大学院 人文社会科学研究科)[†]

A Study on the Giving-receiving Expressions that Collocate with the Japanese Verb “OSHIERU”

Hyunju Ju (University of Tsukuba, Graduate School of Humanities and Social Sciences)[†]

1. はじめに

本稿は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語話し言葉コーパス』に見られる動詞「教える」と共起する授受表現を用い、ガ格名詞句と二格名詞句の省略の有無について情報構造の観点から考察したものである。事柄を叙述する文に、動作が「誰に」という方向性の表す要素が付け加えられる際、述語には方向性を示す要素が必要となる。

- (1) a. 田中さんが本を買った。
 b. ??田中さんが僕に本を買った。
 +方向性 -方向性
 c. 田中さんが僕に本を買って{くれた/くださった/きた}。
 +方向性 +方向性 (筆者作例¹)

例(1)のように、動詞「買う」が誰かに向けられて行われた際、二格名詞句を入れることだけでは不自然さを感じ(例(1b))、述語に授受表現や「てくる/いく」のような行為の方向性を示す成分を加えなければならない。一方、述語にすでに方向性が含まれていると思われる動詞²に関しては、以下の例(2)を用いて述べる。

- (2) a. 田中さんが書き方を教えた。
 b. 田中さんが僕に書き方を教えた。
 +方向性 +方向性 (筆者作例)

例(2b)が、例(1b)に比べて容認度が上がる要因について、まず動詞「買う」「教える」の方向性の有無に注目したい。情報処理振興事業協会技術センター編(1987)で「買う」「教える」の基本文型を調べると、「買う」の第1文型は「ガ/ヲ/V」であり、「教える」は「ガ/ニ/ヲ/V」の文型を第1文型として持つ³。例(1)を見ると「田中さんが本を買った」という構造

[†] murasakiju@gmail.com

¹ 例文作成は筆者によるものであるが、容認度判断については日本語母語話者3名(男性1名、女性2名)により判断してもらった。「?」は少し違和感を感じる文、「??」はかなり不自然さを感じ、文脈的制限がある場合のみ使用可能な文であると表示する。

² 方向性の意が含意されている動詞の例として、「送る」「届ける」「貸す」等があるが、本稿では「教える」に絞り、データを整理し報告する。「教える」以外の動詞の範囲まで広げて取り扱う研究は今後発表予定である。

³ 情報処理振興事業協会技術センター編(1987)の『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic verbs) 辞書編』に「おしえる」と「かう」の第1文型の例として以下のようなものが記述されている。

- ・「おしえる」【教える】N1 が N2 ヲ N3 ニ(N4 デ)
「S 先生は学生にチョムスキーを原書で教えている」
- ・「かう」【買う】N1 ガ N2 ニ N3 ヲ
「彼が車を買った」

において、二格名詞句「僕に」を用いるためには、方向性を表す要素を含む述語との共起が必要である。その反面、例(2)の動詞「教える」は、以下のような意味を持っていることから、動詞自体が方向性を持っていることが伺える。

- ・ 行動や身を処し方などについて注意を与えて導く。いましめる。さとす。
- ・ 知っている事や自分の気持、要求などを他の人に告げ知らせる。
- ・ 知識、技芸などを身につけるようにさせる。教授する。
- ・ おだてたりして、悪い事をするようにしむける。

(『日本国語大辞典』第2版より抜粋、下線は筆者による)

「教える」の意味から分かるように「教える」動作の対象となる人物が想定できる。つまり、動詞の意から二格名詞句の存在が予想されるわけである。そのため、例(2b)は二格名詞句が含まれていても通用するのである。本稿で注目したいのは、動詞「教える」にこのように二格名詞句が表す対象が想定できるにも関わらず、例(3)のように「てくれた」などの表現を用いることができる点である。

(3) 田中さんが僕に書き方を教えて{くれた/くださった}。

+方向性 +方向性 ?

(筆者作例)

上述したように、動詞「教える」は方向性を持っているが、それに改めて行為の方向性を表す授受表現が加えられるのはなぜか。本稿では授受表現が文の情報構造においてどのような役割を果たしているかを調べる。

実際コーパスから動詞「教える」と共起する補助動詞の調査を行い、文の構造を見ると、省略された文の要素があることが分かった。次のような例がその代表的な例である。

(4) さて、私達が日本語教師になる時にまず一度は経験するのが教育実習です。学部の実習や日本語学校では皆一様に経験がなく、先生も教案の作り方から丁寧に教えてくれます。
(『日本語話し言葉コーパス』)⁴

(5) 映画っていうのは本当に人間を成長させる為に非常にいい。学校では教えてもらえないね。色んな勉強を教えてくれるものだと思うんで、是非皆さんも映画をですね、一本でも多く見ていただきたい。

(『日本語話し言葉コーパス』)

従って、本稿では、動詞「教える」と共起する授受表現の基本構造を調査し、文構造においてガ格名詞句と二格名詞句の省略が持つ意味について考察する。第2章では授受表現の基本構造について考察し、第3章ではこの基本構造の要素の省略が表す情報構造について述べる。そして、第4章でコーパス・データを用い、動詞「教える」と共起する授受表現についてどのような情報構造を成しているかについて分析する。

2. 授受表現の基本構造について

授受表現の基本構造について、山岡(1990:19-23)は以下のような構造で説明している。

(6)	渡辺さんが	小林さんに	本を	貸し	てあげる。
	+ガ, human, Ag	+ニ, human, G	+ヲ, concrete, O	+貸ス	
	+ガ, human, Ag	+ノタメニ, human, Bf		+テアゲル	

(ibid.:20)⁵

⁴ コーパス・データの表記において、文字化されているデータを基とし、「,」「。」と下線は筆者による表記である。

⁵ human は人間、Ag は動作主、G は目標、O は対象である。concrete は具体的で、Bf は受

動詞「貸す」は動詞「教える」と同じく動作そのものに行動の向けられる対象を含んでいるため、基本的に同じ構造を持つと言えよう。上記の例では、動詞「貸す」が向けている対象が授受表現の受益者と一致するため、「小林さんに」と二格名詞句で表現する⁶。

このような文の構造を動詞「教える」と共起する授受表現で考えよう。

(7) 「もう少し辛くするとぐっと、うまくなるよ！」とか、言いながら 一緒に味付け直すと、な〜るほど〜と、なる彼女だったら、いいんですけど。。。わたしは、ダンナにそうやって教えてもらいました。ホントにおいしくなるので、素直にきいてました。(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』Yahoo!知恵袋データ)

(8) わたしは、ダンナに そうやって 教え てもらいました。

に ガ 教える
「ガ」 → 「は」と表示 ニ テモラウ

例(7)は恋人の手料理が美味しくないことが悩みである相手の相談に対し、話し手⁷が書いたアドバイスの文である。ここでは「教えてもらった」動作の動作主である話し手自身を主格にし、「教えた」人物を二格で明示し、文の構造における格の明示は授受表現による格が優先されることが分かる。

次節では、動詞「教える」と共起する授受表現の情報構造を述べるための用語の整理と省略現象について述べる。

3. 情報構造における省略現象

本節では情報構造における省略現象⁸について述べる。情報構造とは、Lambrecht(1994)によると、以下のように定義づけられている。

・ INFORMATION STRUCTURE: That component of sentence grammar in which propositions as conceptual representations of states of affairs are paired with lexicogrammatical structures in accordance with the mental states of interlocutors who use and interpret these structures as units of information in given discourse contexts.⁹ Lambrecht(1994:5)

また、カレン(2000)によると情報構造は「その成分の『情報価値』に基づいて分節される(ibid.:2)」と述べ、情報価値において最上位にあるのは焦点であり、その焦点を支えているものは「主題」、副詞成分による修飾は「設定部」と設定している。

益者を意味する。(山岡 1990:19-23)

⁶ しかし、動詞が向けられている対象と、授受表現の受益者が一致していない場合には、以下のように表現できる。

・ 渡辺さんが 私のために 小林さんに 本を 貸し てあげる。(筆者作例)

上記は、ガ格名詞句の「小林さんに本を貸す」行為が「私」に向けられており、受益者は「~のために」で表している「私」である場面に限る。

⁷ Yahoo!知恵袋からのデータであるため書き手となるが、書き言葉も談話の一部であると見なし、本稿では話し手とする。

⁸ 本稿で取り扱う省略は、脱落とは異なる概念とする。脱落は、必要なものである要素が抜け落ちることであるが、省略は何らかの理由によって非明示化されることを示す。本稿では、授受表現におけるガ格名詞句と二格名詞句の省略がどのような理由による現象なのかを解明する。

⁹ 「文法の一部で、事態の概念的表出としての命題が、語彙文法構造と組み合わせられるもので、あるディスコースで、この情報を使用し、解釈する対話者の心的状態と一致するものである」(小野(2005:7)による訳)

先行研究の知見をまとめると、言語活動において話し手の「情報管理(Common Ground Management)」が重要となるが、適切な情報の価値をある言語形式を使って表す仕組みを情報構造であると言える。

この情報構造において、重要となる概念に「トピック」と「フォーカス」がある。Traugott(2010)によると、トピック(topic)は、文の構造の中で、話し手が現在話題にしている事柄のことを言い、フォーカス(focus)は話し手が情報を伝達するとき、聞き手の知らない新情報のことを示すとまとめられている。談話において、フォーカスを間違えると、結束性¹⁰を欠いたコミュニケーションとなり、円滑なコミュニケーションに失敗してしまう恐れがある。フォーカスは話し手と聞き手の間の共有知識が談話の前提となり、その管理能力で、コミュニケーションが円滑に進むかどうかが決まる。

このような情報構造において、省略とは、元々持っている文の要素の中、ある要素が省かれることである。省略の原理について「省略される要素は残される要素より情報の重要度が低いものでなければならない(中右・神尾・高見 1998:135)」という特徴がある。以下の例を見られたい。

(9) A: 君は、朝 6 時に起きるんですか。

B: *はい、(私は)φ起きるんです。

(中右・神尾・高見 1998:136)

上記の例の答え B が不自然となるのは、A の求めている情報が「朝 6 時に」起きるかどうかという情報であり、「起きる」ことに対しての情報の重要度は低いためである。つまり、重要度が高い情報は、省略されにくいこととなる。

授受表現の基本構造については前節で述べたが、実際に授受表現の使用を観察した結果、必ずしも基本構造の要素のすべてが明示されるわけではないことが分かった。

(10) 映画っていうのは本当に人間を成長させる為に非常にいい。学校では教えてもらえないね。色んな勉強を教えてくれるものだと思うんで、是非皆さんも映画をですね、一本でも多く見ていただきたい。

(=例(5))

省略可能な要素は、ガ格名詞句とニ格名詞句があり¹¹、ガ格名詞句とニ格名詞句の両方明示される場合、ガ格名詞句のみある場合(つまり、ニ格名詞句が省略された場合)、ニ格名詞句のみある場合(つまり、ガ格名詞句が省略された場合)、ガ格名詞句とニ格名詞句の両方が省略される場合の 4 つのパターンが考えられる。

動詞「教える」と共起する授受表現の文構造における省略現象の条件について、次のような項目が設定できる。

- ・動詞「教える」と共起する授受表現においてガ格名詞句もしくはニ格名詞句が話し手自身または目の前にいる聞き手である場合には省略できる。
- ・動詞「教える」の動作主と受け手(動作の対象者)が、すでに発話で言及されており、話し手と聞き手両方が共有していると判断する重要度の低い情報は省略できる。

¹⁰ 結束性とは、文と文の間における文法的・語彙的繋がりであることを示す。

(例) A: 森田さんはどこ出身ですか。

B: 東京です。

B の言葉が「私の出身は東京です」と言わなくてもいいのは、前の発話で A が森田さんの出身について聞いており、B の発話はその質問に対して繋がりがある答えを話すという結束性が期待されるためである。

¹¹ ここでヲ格の場合、動詞によって必須格とする場合とそうでない場合があるため、本稿では扱わないことにする。

- ・話し手の伝えようとする情報が、聞き手の知らない新情報であるときには省略されない。

4. 各コーパスにおける動詞「教える」と共起する授受表現と省略現象に関する考察

本稿で研究対象とするのは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語話し言葉コーパス』から収集した例の中、本動詞「教える」＋補助助詞「て」＋授受表現が使用された例である¹²。4.1では各コーパスにおける動詞「教える」と共起する動詞について、4.2では動詞「教える」と共起する授受表現の例を用い、ガ格名詞句とニ格名詞句の明示と省略に分け、その情報構造について述べる。

4.1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語話し言葉コーパス』から見られる「教える」とその補助動詞

本動詞「教える」を含む補助動詞を調べ、表1のような結果を得られた。

表1 動詞「教える」と共起する補助動詞リストとその出現件数

本動詞	補助動詞	『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の出現件数	『日本語話し言葉コーパス』の出現件数
教える	やる	266	0
	あげる	457	4
	さしあげる	14	0
	くれる	2,487	16
	くださる	16,776	4
	もらう	1,141	8
	いただく	1,393	5
	いる	830	8
	ある	10	0
	いく	74	4
	くる	44	0
	しまう	21	0
	その他	187	2
合計		23,700	51

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』において動詞「教える」と共起する補助動詞のうち、授受表現と共起するケースが95.1%とあり¹³、『日本語話し言葉コーパス』における動詞「教える」と共起する補助動詞のうち、72.5%が授受表現と共起していることが分かった。

次の図1と図2を通し、動詞「教える」と共起する動詞の類の中、授受表現が示す割合が高いことが分かる。授受表現以外の動詞としては、表1で述べた「いる・ある」「いく・くる」「しまう」などの例の出現頻度の合計した数である。

次節では、動詞「教える」と共起する授受表現における情報構造はどのようなものであ

¹² 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の内容は、オンライン検索システムである『NINJAL-LWP for BCCWJ』を利用し、『日本語話し言葉コーパス』は全文検索システム『ひまわり』を利用してデータを収集した。

¹³ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータで、動詞「教える」が使用された頻度は、30,502件であるが、そのうち「教えて＋動詞」の表現形式は、23,700件である。つまり、動詞「教える」は単独ではなく、「本動詞＋て＋補助動詞」の形式で使用される傾向があることが分かる。

るかについて述べる。

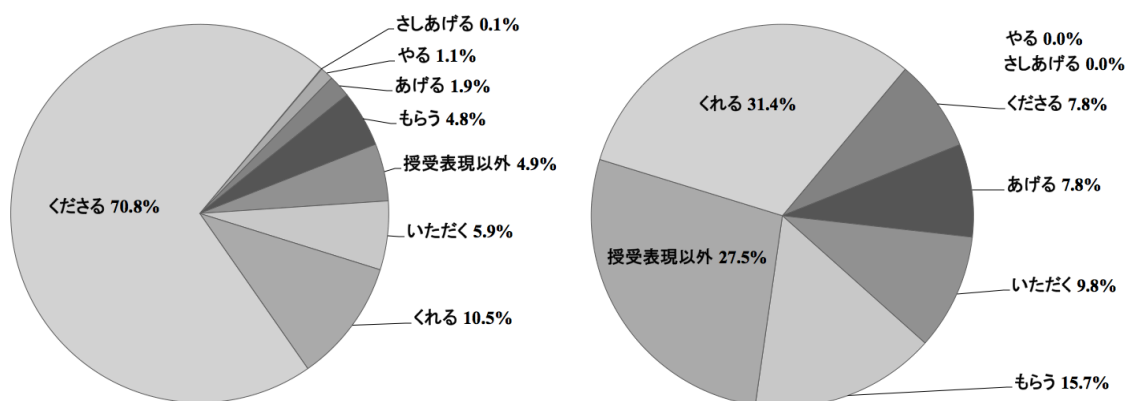


図 1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 図 2 『日本語話し言葉コーパス』における「教える」と共起する動詞リストと割合(%)

4.2 動詞「教える」と共起する授受表現におけるガ格名詞句とニ格名詞句の明示と省略

前節で述べたように、動詞「教える」と共起する補助動詞には授受表現の使用が多いことが分かった。本節では、「教えて+授受表現」の形式が使用された文を用い、文全体の情報構造において省略される情報と、明示される情報について探る。

まず、動詞「教える」と共起する授受表現の文構造について以下のように考えられる。

- ・ A が B に O を 教え てやる・あげる・さしあげる
 ガ ニ ヲ 教える
 ガ ニ/ノタメニ テヤル・アゲル・サシアゲル
- ・ C が A に O を 教え てくれる・くださる
 ガ ニ ヲ 教える
 ガ ニ/ノタメニ テクレル・クダサル
- ・ A が C に O を 教え てもらう・いただく
 ニ ガ ヲ 教える
 ガ ニ テモラウ・イタダク

上記の文構造において、授受表現で「教える」動作の方向性を表しているため、動作の主体もしくは動作の対象となるガ格名詞句とニ格名詞句を用いて方向性を表す役割が希薄となる。つまり、ガ格名詞句とニ格名詞句の明示には何らかの理由があると考えられる。

4.2.1 ガ格名詞句とニ格名詞句両方が省略される場合

コーパスの調査結果として、ガ格名詞句とニ格名詞句が両方省略された場合が顕著であったが、以下のような例がその代表的な例である。

- (11) iTunes のバックアップ方法を教えてもらったのですが、バックアップしたファイルを再インストールした iTunes に入れるにはどうすれば良いのでしょうか？教えてもらえると助かります。

(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』)

この例(11)で「方法を教えてもらった」と「教えてもらえると助かります」の両方、ガ格名詞句と二格名詞句が省略されている。この例における省略の条件としては、話し手が読み手である聞き手への質問であり、「教えてもらう」のガ格名詞句は話し手自身となるため、省略可能である。「方法を教えてもらった対象」が二格名詞句で明示されるはずだが、ここで省略されているのは情報構造の重要度が低い情報であるためである。つまり、ここでは「誰に」教えてもらったのかは重要な情報でないのである。

以上のように、動詞「教える」と共起する授受表現の文構造においてガ格名詞句と二格名詞句が省略されるケースが多いが、次節ではガ格名詞句と二格名詞句が明示されることについて述べる。

4.2.2 ガ格名詞句のみ明示される場合(二格名詞句が省略される場合)

次に、ガ格名詞句のみ明示された場合は、以下のような例が挙げられる。

(12) 一緒にいた観光客の人が教えてくれてその観光客の方はもう帰るって話しだったんだ。

(『日本語話し言葉コーパス』)

例(12)では、ガ格名詞句が明示された理由は、「観光客の人」が第3者であり、フォーカスされている。そのため、「教えてくれて」の後接部にも「観光客の人」の情報について話しが続いていることが観察できる。こうしたことをトピックの継続性の特徴を持つと言える。

4.2.3 二格名詞句のみ明示される場合(ガ格名詞句が省略される場合)

この節では、ガ格名詞句が省略され、二格名詞句のみ明示された場合について分析する。

(13) 切らないでくれ。あんたに教えてもらいたいことがある。ちょっと待て。

(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』)

上記の例のように、電話での会話で、話し手自身が聞き手に「教えてもらいたい」ことであることは自明であるため、ガ格名詞句も二格名詞句も省略される可能性があるが、「あんたに」の二格名詞句が明示された理由については、他の対象からの対比の効果であり、「他の人ではなく、あなたに」という対比性を表すことができ、話し手の切実さをより感じさせるためである。

4.2.4 ガ格名詞句と二格名詞句両方が明示される場合

ガ格名詞句と二格名詞句の両方が明示された場面について、以下の例を見られたい。

(14) 父親の友人の家族のお姉さん達が私に泳ぎを教えてくれてんで、そうね、プールでも泳げるようになったよ。

(『日本語話し言葉コーパス』)

上記の例では、ガ格名詞句が第3者であり、会話の場面にいない人物であり、前の文脈においても触れたことがない新情報である。そのため、話し手は聞き手に伝える必要があることから明示され、フォーカスとしての情報構造を持つ。二格名詞句である「私に」は、話し手自身に向けられているため、言及しなくても分かる情報であるが、話し手自身を二格名詞句に明示することで、後節の「泳げるようになった」主体を表すトピックとして働くと言える。

5. おわりに

動詞「教える」と共起する授受表現の文構造において、ガ格名詞句と二格名詞句は必須格でない理由は、ガ格名詞句と二格名詞句の情報が前提化されることが無標であり、ガ格名詞句や二格名詞句を明示することで、対比や主観性の強い有標性を持つことと考えられる。本稿の内容で取り扱った内容を表2のようにまとめる。

表 2 「教える」と共起する授受表現におけるガ格名詞句とニ格名詞句の明示・省略

省略の条件	ガ格名詞句とニ格名詞句が、話し手と聞き手の共通知識であるかもしくは情報の重要度が低い。
明示の条件	ガ格名詞句またはニ格名詞句が表すトピックの継続性があるかもしくは対比でトピックを強調する。

本稿では書き言葉、話し言葉に区別についての明確な区別がまだできていないことが指摘できる。この点については今後の課題とし、ウェブにおける書き込みや国会議事録の文字化データについて話し言葉的要素が強いため、書き言葉と話し言葉の中間的形式とカテゴリーを改めて設定し、分析を続けたい。

文 献

- 小野正樹 (2005) 『日本語態度動詞文の情報構造』、ひつじ書房。
 甲斐ますみ (1995) 「省略のメカニズム-談話の構造と関連性および聞き手の推論を中心に-」
 『岡山大学留学生センター紀要』 3, pp.1-18、岡山大学留学生センター。
 カレル・フィアラ (2000) 『日本語の情報構造と統語構造』、ひつじ書房。
 北原保雄 編 (2000) 『日本国語大辞典』第二版、小学館。
 久野暲 (1978) 『談話の文法』、pp.5-124、大修館書店。
 情報処理振興事業協会技術センター 編 (1987) 『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic verbs) 辞書編』、p.72, pp.86-87、情報処理振興事業協会技術センター。
 坪井美樹 (2005) 「テ形接続形式と文法化」『国語と国文学』983(17:11)、pp.13-25、東京大学国語国文学会。
 中右実、神尾昭雄、高見健一 (1998) 「第Ⅱ部 第1章 省略」『日英語比較選書2 談話と情報構造』、pp.114-138、研究社。
 中野洋 (1991) 「『(て)いただく』文における省略」『計量国語学』18-2, pp.66-79、計量国語学会。
 野元裕樹 (2013) 「文献紹介:Krifka(2008) Basic notions of Information Structure」2013年度第2回研究会 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
 前川喜久雄 編 (2013) 『講座日本語コーパス 1.コーパス入門』、朝倉書店。
 宮地裕 (1965) 「『やる・くれる・もらう』を述語とする文の構造について」『国語学』63, pp.21-33、日本語学会。
 山岡政紀 (1990) 「授受補助動詞と依頼行為」『文藝言語研究 言語篇』17, pp.19-33、筑波大学文藝・言語学系。
 Elizabeth Closs Traugott (2010) *Gradience, Gradualness and Grammaticalization*, Amsterdam, John Benjamins. (福元広二 訳 (2011) 「第3章文法化と(間)主観化」高田博行 他 編『歴史語用論入門』、pp.59-70、大修館書店)
 Knud Lambrecht (1994) *Information Structure and Sentence form : Topic, focus, and the mental representations of discourse referents*, Cambridge studies in Linguistics 71, pp.1-35, Cambridge University Press.

関連 URL

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj
 現代日本語書き言葉均衡コーパスのオンライン検索システム 『NINJAL-LWP for BCCWJ』
<http://nlb.ninjal.ac.jp/>
 国立国語研究所『日本語話し言葉コーパス』 http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cs/
 全文検索システム『ひまわり』 <http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php>